

# 矢作川水系で採集されたカジカ類

## Records of Japanese sculpin from the Yahagi River system, Aichi Prefecture

荒尾一樹

Kazuki ARAO

### 要 約

矢作川水系で絶滅が危惧されているカジカとウツセミカジカが採集された。段戸川で採集されたカジカは、過去に種苗放流された個体群が再生産したものである可能性が考えられた。巴川で採集されたウツセミカジカは、矢作川水系で行われているアユの汲み上げ放流に混じったために横断工作物より上流で採集された可能性が考えられた。

キーワード：矢作川，カジカ，ウツセミカジカ，絶滅危惧種，横断工作物

### はじめに

矢作川は長野県に水源を発し、長野県・岐阜県・愛知県を流れ、野入川、段戸川、巴川などと合流し、愛知県で三河湾に流出する延長約 118 km の 1 級河川である。矢作川水系には、スズキ目 Perciformes カジカ科 Cottidae のカジカ *Cottus pollux* とウツセミカジカ *C. reinii* が分布することが知られている（愛知県環境調査センター編，2015）。両種とも河川の護岸化など生息環境の悪化により個体数が減少し、カジカは環境省のレッドデータブック（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編，2015）で準絶滅危惧，愛知県のレッドリスト（愛知県環境調査センター編，2015）で絶滅危惧 IB 類，ウツセミカジカはそれぞれ絶滅危惧 IB 類，絶滅危惧 II 類に選定されている。絶滅が危惧されている状況の中、筆者は矢作川水系でカジカとウツセミカジカを採集し、若干の知見が得られたので、その結果を標本に基づいて報告する。

### 調査地と方法

調査は 2009 年 11 月 3 日に巴川，2011 年 9 月 13 日に段戸川，2011 年 9 月 30 日に野入川で行った（図 1）。調査には手網を使用した。採集された魚類の一部は標本とし、その他の個体は種の同定後、放流した。標本は豊橋市自然史博物館魚類資料（TMNH-F）として登録・保管した。種の同定、和名、学名は中坊編（2013）に従った。



図 1 調査地点。○：カジカが採集された地点，●：ウツセミカジカが採集された地点。

### 結果と考察

#### カジカ（カジカ大卵型；河川陸封型）

*Cottus pollux* Günther, 1837

標本：TMNH-F2210，1 個体，体長 46.0 mm，愛知県北設楽郡設楽町段戸川，2011 年 9 月 13 日（図 2A）；TMNH-F2209，1 個体，体長 61.0 mm，愛知県豊田市野入川，2011 年 9 月 30 日（図 2B）。

両地点ともに平瀬の礫底で 1 個体ずつ採集された。段戸川では同所的にタカハヤ *Phoxinus oxycephalus juyi*

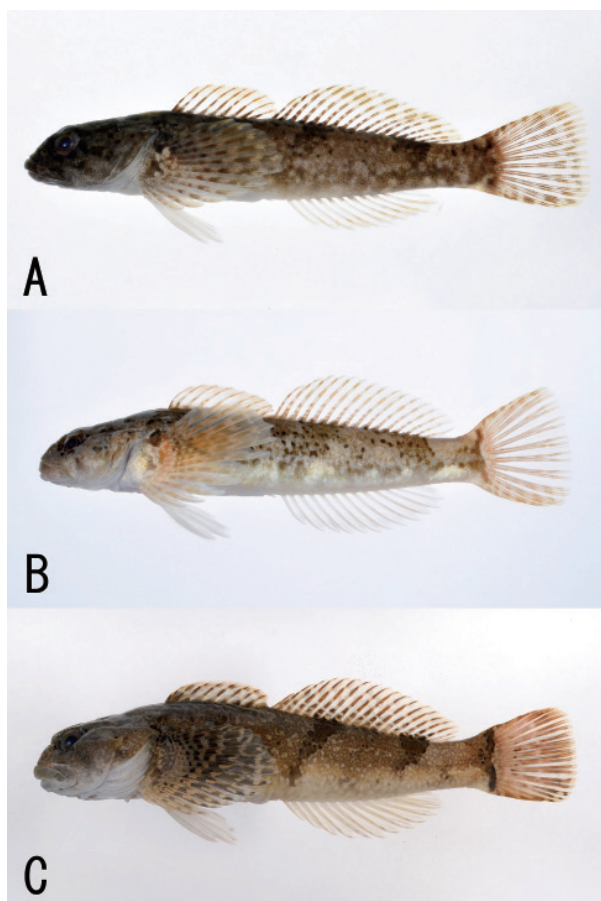


図2 採集されたカジカ類。  
A: カジカ (TMNH-F2210),  
B: カジカ (TMNH-F2209),  
C: ウツセミカジカ (TMNH-F1085).

が採集された。

矢作川水系では、かつては井山川で見られたが、1992～1994年に旧北設楽郡稲武町(現豊田市)で行われた調査では確認されず、激減した種とされている(小山, 1996a)。また、1965年頃には段戸山周辺の河川ではどこでも見られたが激減したため、枯渇した資源の増大を目的に、1985年に種苗放流が行われている(小山, 1996b)。男川でも2008年に採集されているが、矢作川水系ではあまり見られない種とされている(地村ほか, 2010)。今回、段戸川で採集された個体は、放流した個体群が再生産したものである可能性が考えられる。

#### ウツセミカジカ (カジカ小卵型; 両側回遊型)

*Cottus reinii* Hilgendorf, 1879

標本: TMNH-F1085, 1個体, 体長101.8 mm, 愛知県豊田市巴川, 2009年11月3日(図2C)。

早瀬の礫底で1個体が採集された。同所的にカワムツ *Candidia temminckii*, アブラハヤ *P. lagowskii steindachneri*, カマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus*,

アカザ *Liobagrus reinii* (TMNH-F1086), カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus*, シマヨシノボリ *R. nagoyae* (TMNH-F1091), オオヨシノボリ *R. fluviatilis* (TMNH-F1744) が採集され、採集時の水温は12.1℃であった。

矢作川の下流域で河川遡上中の小型個体が採集されているが(荒尾, 2010; 鳥居・浅香, 2013など), 今回は河口から約45 km上流で大型個体が採集された。本種は横断工作物の建設により海からの遡上や河川内移動が阻害されるが(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015), 河口から調査地点の間には藤井床固, 細川頭首工がある(図1)。矢作川水系ではアユ *Plecoglossus altivelis altivelis* の汲み上げ放流が行われており(服部ほか, 2018), それに混じった可能性が考えられる。汲み上げ放流に混じったのではなければ, これらの横断工作物を越えたことになる。

#### 謝辞

標本の登録・保管に便宜を図っていただいた豊橋市自然史博物館の長谷川道明氏, 坂本博一氏に謝意を表す。

#### 引用文献

- 愛知県環境調査センター編(2015) 第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015 汽水・淡水魚類 掲載種の解説. 41pp. 愛知県環境部, 名古屋.
- 荒尾一樹(2010) 矢作川下流域の魚類. 矢作川研究, 14: 45-55.
- 地村佳純・亀島重範・磯貝 徹・新美淳也・樋口真理可(2010) 男川水系(矢作川支流: 岡崎市)の魚類相. 碧南海浜水族館年報, 22: 28-37.
- 服部克也・岩田友三・鯉江秀亮・稲葉博之(2018) 矢作川における遡上アユ及び産卵アユの耳石輪紋分析による日齢査定と日齢から推定した遡上と産卵の状況. 愛知水試研報, 23: 1-9.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編(2015) レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類. 414pp. ぎょうせい, 東京.
- 小山舜二(1996a) 魚類. 稲武町史-自然-本文編, 稲武町教育委員会(編): 473-481. 稲武町, 愛知.
- 小山舜二(1996b) 魚類. 設楽町誌「自然編」本文編, 設楽の自然調査会(編): 625-638. 北設楽郡設楽町, 愛知.
- 鳥居亮一・浅香智也(2013) 志貴野橋から藤井堰(床固)の間に出現する淡水魚類と甲殻類十脚目について. 三河生物, 5: 39-49.
- 中坊徹次編(2013) 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.

〔三河淡水生物ネットワーク:  
〒121-0823 東京都足立区伊興2-7-3〕